



小田小だより

平成30年3月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 Tel 045(775)3011
<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/> 横浜市立小田小学校



「油断」の意味 ～一人一人の宝に思いを寄せて～

学校長 木村 昭雄

童謡の「春よ来い、早く来い」に込められた心境と同じように朝の光に春の到来を感じ、四季ある日本の風景を有り難いと思う今日この頃です。弥生3月を迎え、東日本大震災及び福島原発事故が発生し、多くの尊い命が失われた日からもうすぐ七年が経とうとしています。改めて、犠牲になられた方々に心より哀悼の意を表します。幾歳が過ぎようとも3・11の記憶を風化させることなく、被災地の方々に心を寄せ、今も続いている復興に向けた取り組みを自分ごととして捉えなければならぬと強く思っているところです。

さて、二十年以上も前のお話をいたします。私が友人三人と、ひえいざんえんりやくじこんほんちゆうどう比叡山延暦寺根本中堂に行き、厳しい修行を積んだ高僧から説法を受けたというお話です。峰の上にひっそりとたたずむ寺院は、神聖そのもので、そこに行った者にしかその荘厳さは伝わらない気がしました。その延暦寺には千二百年前から大切に守られている宝があります。それは、最澄が修行で使っていた炎、灯火（ともしび）です。その灯火が今も消されることなく守り通されているのです。何度も災害に遭いました。織田信長の延暦寺焼き討ちが有名です。それらの苦難からも守り通した灯火が延暦寺根本中堂にあるのです。灯火を守るために、菜種油が切れないように注ぎ、炎の芯が燃え尽きそうだと新しい芯に代える。そういった営みを営々と続けてきているのです。その灯火を見せていただきました。千二百年間も守り続けられた灯火が世界中のどこにあるでしょうか。まさに、日本の奇跡、日本の宝だと思いました。

じっと灯火を見ているうちに、私に一つの疑問が出てきました。その疑問を高僧に問いかけました。「灯火はなぜ、守り続けられたのでしょうか。灯火の係とか、組織の中でどのように役割が位置づけられているのでしょうか。」高僧は静かに答えられました。「係とか役割とかを決めたら、何年かはうまくできるかもしれませんが、しかし、役割を決めた瞬間にだれかの仕事というような甘えの心が出てしまい、他人ごとになってしまうのです。そこに失敗の原因が隠されているのです。比叡山では、誰も役割はもっていません。気づいた人が油を足す、気づいた人が芯を代える。我々が全身全霊で守らなければならないものです。役割や係分担で行うものではないのです。油が切れたら灯火は消えます。それは心に迷いや怠慢が満ち、当たり前ことができなことを指します。このことを『油断』と言うのです。この言葉は、比叡山の灯火を守ることから生まれた言葉なのです。」

高僧の話聞いて、「油断」とはこういう意味だったのかと初めて知りました。火が宝だなんて、他から見れば何でもない物でも、比叡山延暦寺にとっては全身全霊で守らなければならない宝なのです。宝とはそういうものなのかもしれません。

皆様にとって、宝とは何でしょう。小田小学校ではこれからも、どんなに小さくても子どもたち一人一人にとっての宝物を一緒に探したり守ったりしていきたいと思っています。

今年度も残すところあと僅かとなりました。保護者の皆様、地域の皆様にはいろいろな場面でたいへんお世話になりました。深く感謝申し上げます。

いよいよ3月20日は「第27回卒業証書授与式」の日です。卒業生の皆さん一人一人が、自らの力で宝を探し出すために、決して「油断」なきよう、前に向かって進み続けられるよう心から祈念しております。